

2014 年 8 月 4 日

環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

アゼルバイジャン国 ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2014 年 7 月 18 日(金) 14:01～17:40
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1 階 112 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、清水谷委員、二宮委員、村山委員  
(村山委員は、メール審議にて参加)
- ・議題：「アゼルバイジャン国ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))」ドラフトファイナルレポートについての助言案  
作成
  
- ・配付資料：
  1. 「アゼルバイジャン国ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業(協力準備調査(有償))」ド  
ラフトファイナルレポート
  2. 環境影響評価報告書(EIA)
  
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第50回委員会)

- ・日時：2014 年 8 月 4 日(月) 14:31～18:08
- ・場所：JICA 本部(会議室：113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 独立系の電力生産に係る法制度（電力買取り義務など）について確認し、再生可能エネルギーの導入に関する将来的な見通しをファイナルレポートに記述すること。

### **スコーピング・マトリックス**

2. 放水口近傍では、環境影響が予想されるので、「N」( no Impact )から「B」( causes certain degree of impact )に変更すること。

### **環境配慮**

3. 陸域並びに海域における生態系の調査は春期のみを実施されたことを明記し、限られた期間での調査であっても通年での生態系への影響を確認するという妥当性ならびに代表性について、ファイナルレポートに記載すること。
4. すでに海洋の水質汚濁が進んでいるが、これに対して本事業がさらに大きな影響を与えないことを確認するため、モニタリングを実施する必要性ならびに影響が生じた場合の緩和策をファイナルレポートに明記すること。
5. 振動影響については、建設中及び供用後共に、基準値を超えないかどうかをファイナルレポートに記述すること。国内基準が存在しない場合は、国際基準を参照すること。
6. 建設時および供用時の騒音のモニタリングについては、夜間も対象とすることを明記すること。また、供用時の騒音の測定回数が他の項目に比べて少ないため、適切性について再検討すること。さらに、供用時の騒音に関して、直近の居住地域における夜間の予測値は基準値と同値であるため、風の影響を考慮すると、夜間の操業の調整など対応策を検討し、その内容を記載すること。
7. 工事中の大気汚染による影響評価について、粉じんの巻き起こりへの対応策として示されている散水の具体的な内容を示すこと。
8. 鳥類や魚類をはじめとする動植物の調査の制約を考慮したうえで、影響評価ならびに対応策に関して、具体的な内容を記載すること。
9. プラントの廃水処理施設の内容が不明であるため、可能な限り詳細に記載すること。また、廃水対策と緩和策についても記載すること。
10. 供用時の具体的な廃棄物処理システムについて、詳細を記載すること。

### **社会配慮**

- 11 レクリエーション等の目的による海岸利用がないことをファイナルレポートに記述すること。

12. 社会影響に関する評価のうち、水利用に関する影響（建設時、供用時）は「N」（no Impact is expected）から「B」（causes certain degree of impact）に変更し、供用時の地元の漁業への影響とその対応策について、より具体的に記載すること。
13. 建設時および供用時における地域住民からの意見・苦情聴取の具体的方法について、記載すること。

#### **ステークホルダー情報公開**

14. 供用後のパブリックミーティングは、住民から要望された場合に実施されることをファイナルレポートに明記すること。

以 上